

質問手法の違いが時間割引率の計測に与える影響

花岡 智恵^a, 池田 新介^b, 大竹 文雄^c

要 旨

サーベイによる時間割引率の計測において、その質問手法により、時間割引率の計測値に違いが発生するかを検証した。選択法とニュートン法という2つの質問方法と、選択肢の中で金額などの量を変化させるか、それとも遅れを変化させるか、という2つの調整手段の違いに着目した。分析の結果、質問手法の違いにより、時間割引率、現在バイアス・パラメータ、および、割引因子に違いが観察された。

キーワード：時間割引率，逡減的時間割引率

JEL Classification Numbers: D81, D90

^a 京都産業大学 経済学部

^b 大阪大学 社会経済研究所

^c 大阪大学 社会経済研究所